

西部消防局管内の住宅用火災警報器の奏功事例

年 月	市町村	事 例
平成30年 12月	米子市	居住者が、台所のコンロで魚を鍋で煮ていたが、目を離し隣室にいたところ、空焚きとなり住宅警報器の警報音が鳴り、煙が出ていた鍋をシンク内で水をかけ火災に至らなかった。
平成30年 7月	南部町	一人暮らしの住人の「寝たばこ」で敷布団から出火したもの。寝室の住宅用火災警報器(煙式)音声警報器で目覚め、洗面器を使用し消火を行うと共に、警報音に気づいた隣人も消火に協力した。その後住人は屋外に避難、隣人により119番通報が行われたもの。
平成29年 2月	米子市	居住者が台所のIHに天ぷら鍋をかけてスイッチを入れたまま、その場を離れたため油が過熱され発煙し、居間に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が鳴動して居住者が気づき金属製の蓋を天ぷら鍋の上に被せスイッチを切り、その後119番通報した。
平成29年 1月	境港市	台所で電子レンジに生の芋を15分モードで調理セットして同室で横になって待った。隣の居室の住警器が鳴動、室内に白煙が充満していた。電子レンジの電源コードを抜いて屋外に避難した。
平成28年 9月	境港市	台所コンロで味噌汁を温めながらテレビを見ていると、コンロ上の住宅用火災警報器が鳴動し、同一敷地別棟に居住している娘も警報音に気づき、通報したもの。
平成27年10月	境港市	ガスコンロに土鍋をかけ、そのまま寝てしまったため鍋の内容物が加熱され発煙。設置されていた住宅用火災報知機が鳴動したもの。鳴動音と煙のにおいに気付いた下階の住人が、通報するとともに同コーポの住民を屋外に避難させた。
平成27年10月	境港市	芋を入れたアルミ製の鍋をカセットガスコンロで熱した。火をつけたまま外出したためにアルミ製の鍋の底部が溶融して穴が開き木蓋等に着火及び発煙した。設置されていた住宅用火災警報器が煙を感知し鳴動した。
平成27年 7月	米子市	電気コンロに火が点いた状態で、鍋をかけたまま外出し内容物が焦げたもの。台所の隣の部屋に設置してあった住宅用火災警報器が煙を感知し鳴動。近隣者が音と焦げ臭い匂いに気づき通報したもの。
平成26年 8月	大山町	父親が2階寝室で就寝中、階段に設置した住宅用火災警報器の音で目が覚め、2階の別室で就寝中の娘に避難するように指示し、避難したもの。
平成25年 1月	米子市	ベッド横の電気ストーブをつけたまま就寝し、布団が電気ストーブに接触し布団が焦げて発煙。寝室の住宅用火災警報器(煙式)の警報音に気づき居住者が布団をたたき消火した。
平成25年 2月	境港市	家人がガスコンロに鍋をかけ、火を消し忘れたまま外出した為発煙、煙の臭気と住宅用火災警報器の警報音を聞いた隣人が消防へ通報し火災に至らなかった。
平成25年 4月	米子市	高齢者世帯が居住する、風呂の焚口付近から出火。台所に設置されていた住宅用火災警報器(煙式連動型)の寝室警報音で早期に気付いたもの。その後、119番通報を行い水道水にて初期消火を行う。
平成25年 6月	大山町	母親の家から「ピイピイ」という音が聞こえたので、合鍵で家の中に入ると台所で住宅用火災警報器が鳴動しており、台所隣の仏間に煙が充満していた。仏壇前の座布団から煙が出ていたので、外に出してバケツで水をかけて消火した。

平成25年 9月	境港市	1階台所のガスコンログリルにて手羽先を調理加熱したことを忘れ外出したために出火した。台所に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)の警報音で通行人が早期に気づき119番通報を行い水道水、濡れタオルにて初期消火した。
平成25年10月	境港市	鍋をコンロに掛けたまま外出し、鍋の内容物(卵)が焦げ発煙したもの。付近の住人が住警器のベルで気づき煙が出ているのを確認し119番通報を行う。
平成25年11月	境港市	就寝中、住宅火災警報器が鳴動して目が覚める。目が覚めると掛けている布団、毛布から炎と煙が出ていた。ベッドの横の窓から屋外に投げ出し室内には被害なし。
平成24年 3月	米子市	寝室に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)の警報音に気付いたホームヘルパーが寝室内の煙を発見。初期消火し火災に至らなかった。
平成24年11月	米子市	住宅用火災警報器の音声警報で台所のてんぷら鍋から火が上がっているのに気づき、毛布を鍋に被せその後消火器で消火し、119番通報した。
平成24年11月	米子市	住宅用火災警報器の音声警報で台所のてんぷら鍋から火が上がっているのに気づき、毛布を鍋に被せその後消火器で消火し、119番通報した。